

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（1月10日-16日）の新規陽性者数は、9,355人（先々週 7,308人）でした（図1）。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は 1.29（最小値-最大値:0.76-1.84）、このうち那覇市の実効再生産数(R)は 1.26 (0.97-1.69) でした。また、宮古は 0.86 (0.54-1.81)、八重山は 0.93 (0.57-1.43) でした。

1月上旬に認めた陽性者数の急激な増加は収まりつつあるようですが、検査体制の上限に近づいていることから、予約が取れないなど受検を諦めている方が一定数いるものと考えられます。また、オミクロン株に感染しても、若者にとっては軽症であるとの情報が広がっていることで、検査を受けない方が増えている可能性があるため、推定値が下振れている可能性があります。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。()内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

年代別推移

年代別では、20代が2,446人（26%）と最多ですが、先々週の3,624人から大きく減少しています。次いで、10代1,471人（16%）ですが、先々週の859人から大きく増加しています（図2）。年齢階級別割合の日別推移で見ると、1月上旬には半数近くを占めていた20代の占める割合が急速に縮小し、小児、高齢者を含めた全世代へと拡散し始めていることが分ります（図3）。

保健所管区別・市町村別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部771人（先々週787人）、中部3,238人（先々週2,069人）、那覇市2,137人（先々週1,618人）、南部2,678人（先々週1,996人）、宮古415人（先々週547人）、八重山58人（先々週146人）でした。北部、離島では減少に転じた可能性があります。中南部では高いレベルでの流行が続いています（図4）。

人口1万人以上の市町村別（人口10万人あたり7日間合計）では、多い順に名護市864、宮古島市832、沖縄市757でした（図5）。名護市では、65歳以上の高齢者84人（16%）と多いことが特徴で、このうち33人が施設入所者でした。

渡航者関連

保健所の疫学調査によると、渡航後に陽性を確認した方は61人（0.7%）でした。内訳は、県外からの渡航者58人（先々週126人）、県外へ渡航した県民3人（先々週3人）でした。都道府県別では、東京都11人と最多で、次いで大阪府10人、神奈川県9人と続きます。渡航元は18都道府県に及んでおり、全国的に流行していることが推察されます。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（1月16日時点）で339人と1週間前の255人から急速に増加しています。酸素投与など中等症患者も195人と1週間前の115人より大きく増加しています。ただし、気管挿管など重症患者は発生していません（図6, 7）。

第6波における重症度

1月1日から16日までに、宮古島市および石垣市で診断された新規陽性者1,234人について重症度を確認したところ、1月17日時点で中等症Ⅰ（息切れ、肺炎所見あり）32人（2.6%）、中等症Ⅱ（酸素投与、呼吸不全あり）20人（1.6%）のほかは無症候または軽症でした。人工呼吸管理を要する重症者は出ていません。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、オミクロン株への置き換わりとともに急速な感染拡大を認めています。しかし、先週中旬以降、新規陽性者数の伸びは鈍化してきています。

1月9日から県内全域で実施されている重点措置を含め、県民による感染予防の効果が表れてきた可能性があります。仕事始めの週には無料検査に集まっていたものが、オミクロン株は軽症が多いとの情報とともに、とくに若者層が検査を受けなくなっていることも考えられます。

今週は、成人式を含む3連休で感染した方が診断される時期にあるため、ふたたび新規陽性者数が増加する可能性があります。昨年の同時期において、家庭や職場において二次感染、三次感染が続き、高齢者へと感染が拡大していった経緯がありました。引き続き感染拡大を抑止する取り組みが求められます。

これまでは、若者中心の流行であったことから重症者は認めておらず、流行規模に比して入院を要する患者数も限定的です。しかし、すでに高齢者や小児へと世代を超えて広がり始めています。伸びが鈍化したとはいえ、沖縄県は大きな流行の最中にあり、今後、このまま高齢者へと広がった場合には、入院需要が急速に増大して医療がひっ迫する可能性があります。とくに高齢者施設の集団感染を警戒すべき状況です。

年齢階級別では、40歳未満830人の陽性者のうち酸素投与を要した症例は1人のみ、80歳未満の96.9%が無症候または軽症でした。一方、80歳以上の陽性者は28人と限られた範囲ではありますが、21.4%が酸素投与を要する状態となっています（図8）。

50歳未満の若年者の多くは感染しても症状は軽く、自宅療養で軽快しています。ただし、肥満や基礎疾患、妊娠など重症化リスクのある方々は、症状を認める時は早めに受診されることを勧めます。高齢者と同居されている方、高齢者へのケアに関わっている方も、症状を認める時は早めに検査を受けるようにしてください。PCR検査の予約がとりにくい場合には、市販の医療用抗原検査キットを活用してください。

オミクロン株であっても、基本的な感染対策が有効です。すなわち、人が集まる場所では、マスクを着用してください。公共のモノに触れたときは、こまめにアルコールなどで手を消毒してください。一緒に食事をするのは、同居する家族やパートナーなど親しい人に留めてください。そして、発熱などの症状を認める時、仕事や学校を休み、外出を自粛することは極めて重要です。

今週も本島中南部を中心に増加が続き、新規陽性者数は10,000-15,000人と見込みます。ただし、成人式を含む先の三連休での感染者を多数認めて、これを上回る可能性もあります。また、今週末までに入院患者数は急速に増加し、650-750人に至ると見込みますが、社会福祉施設における集団感染が生じた場合、そのまま施設での療養が選択される場合には、入院患者数が抑制される可能性があります（図9）。

図1 陽性者数の推移 (確定日・沖縄県)



図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (1月10日~16日)

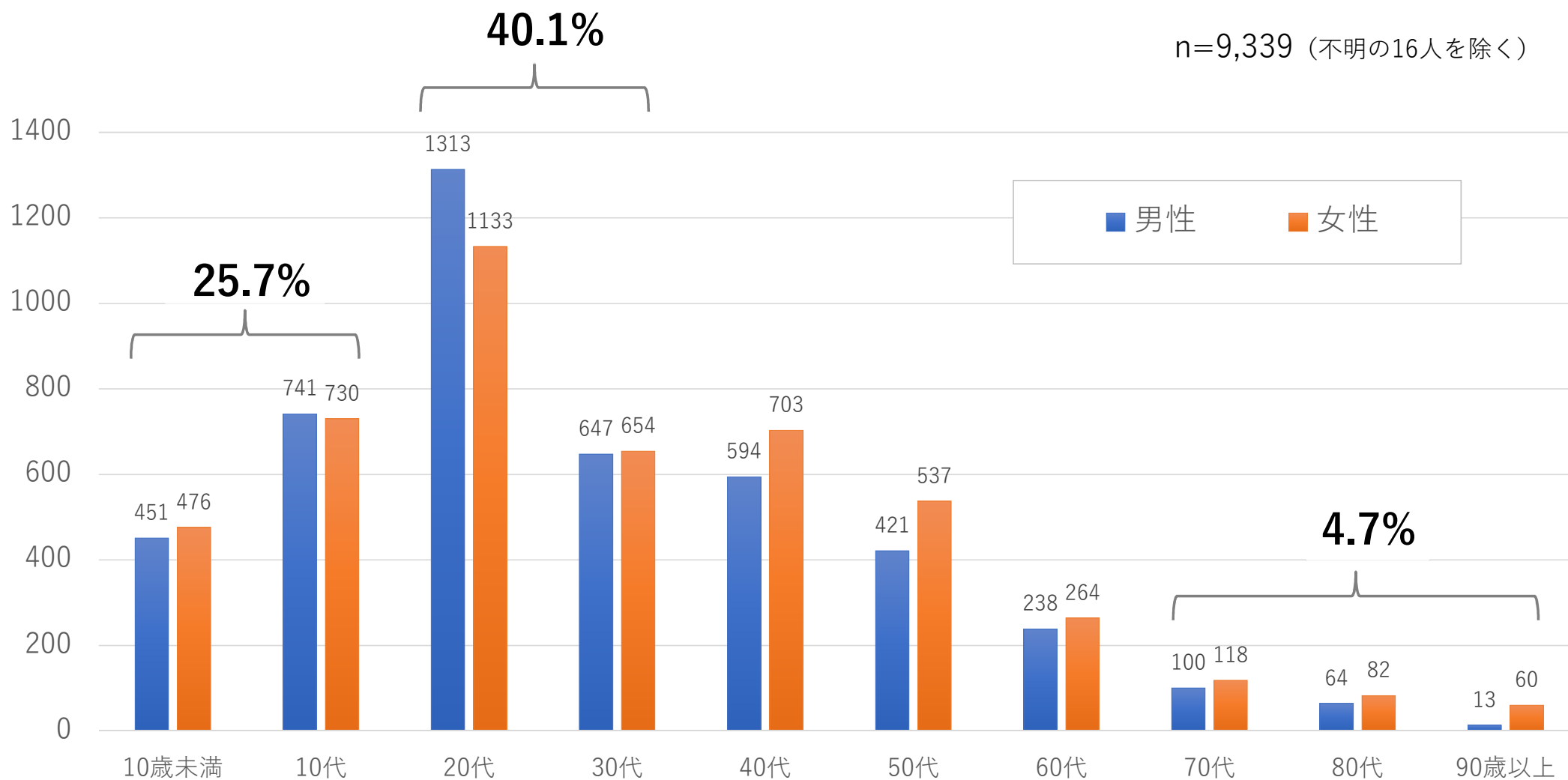


図3 新規陽性者における年齢階級別割合の日別推移（沖縄県）

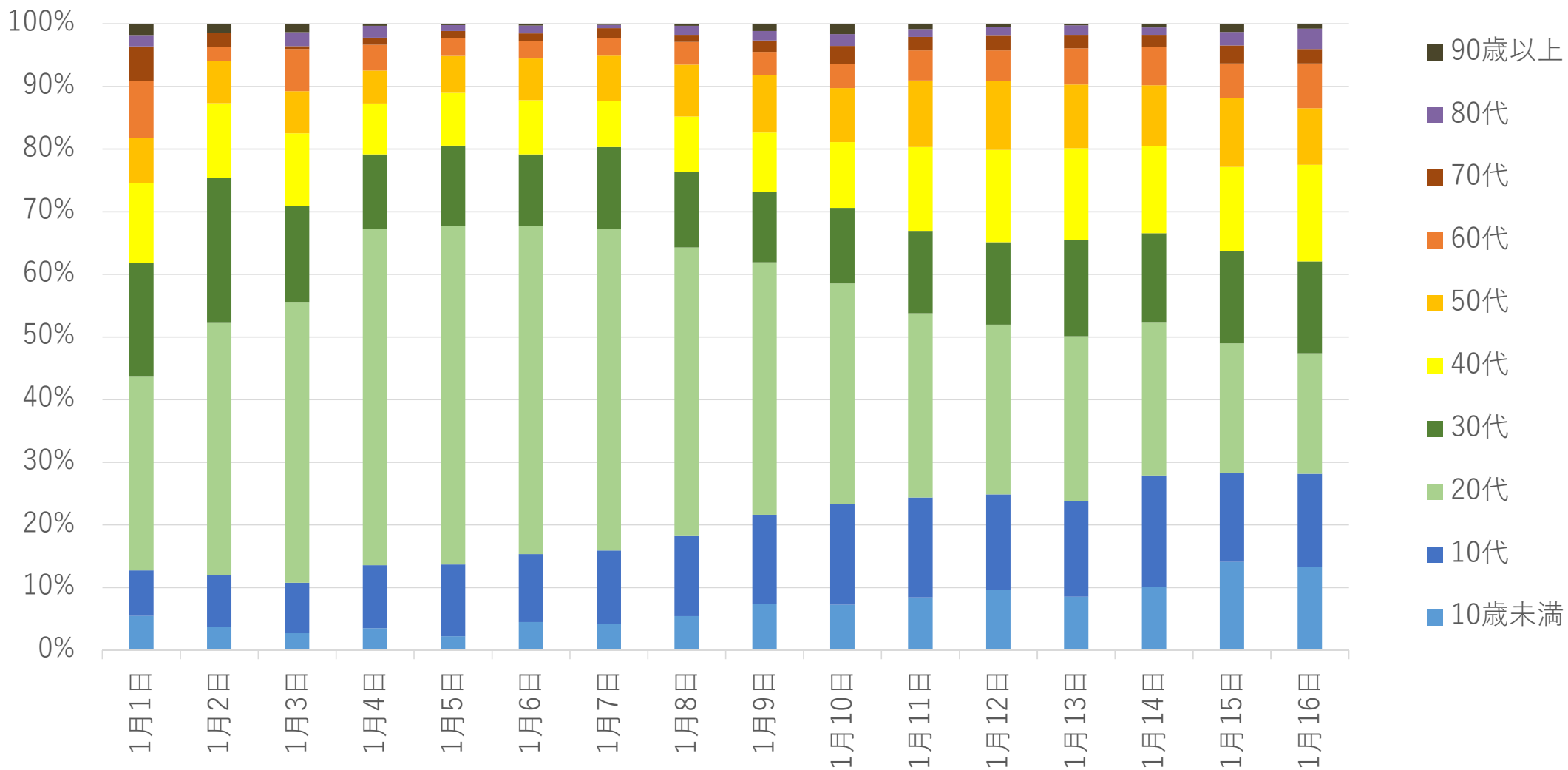


図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計

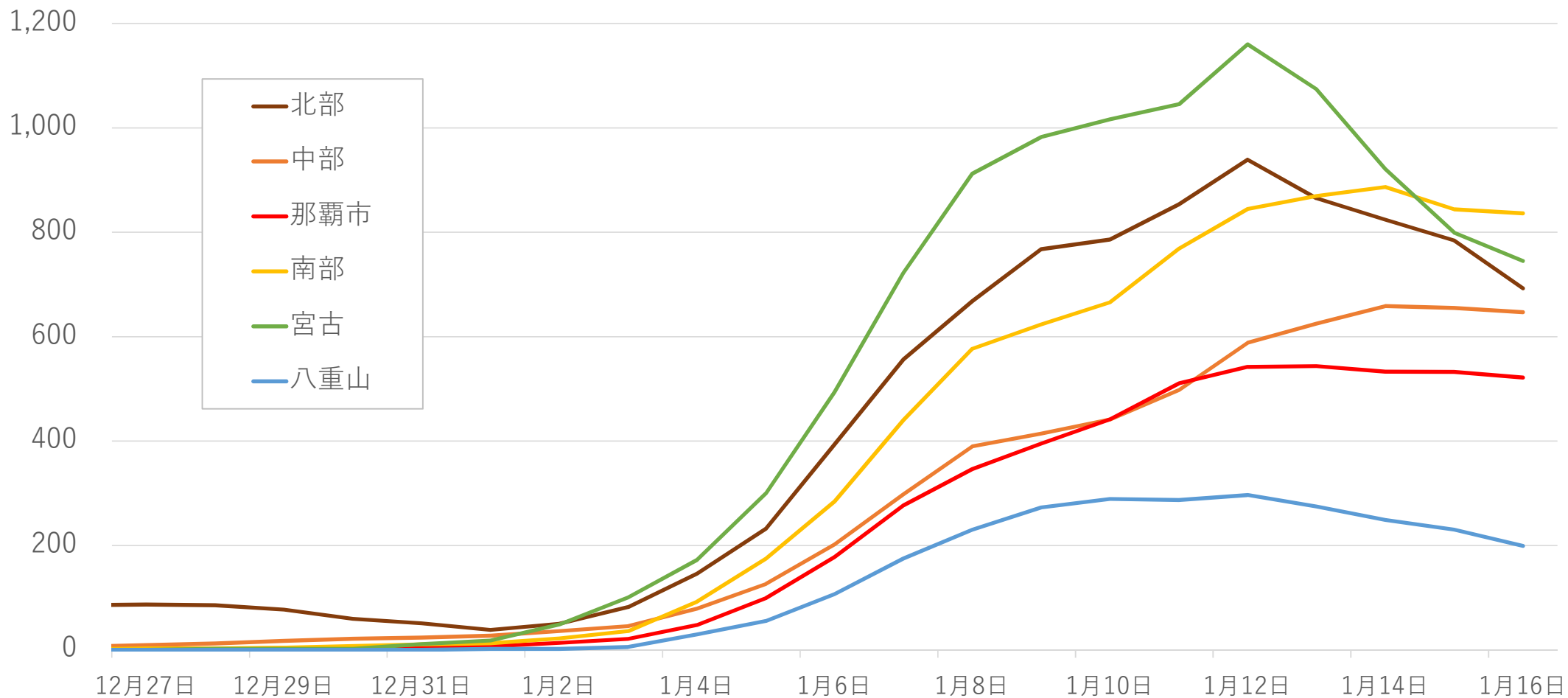


図5 沖縄県・市町村別ヒートマップ（1月10日～16日）

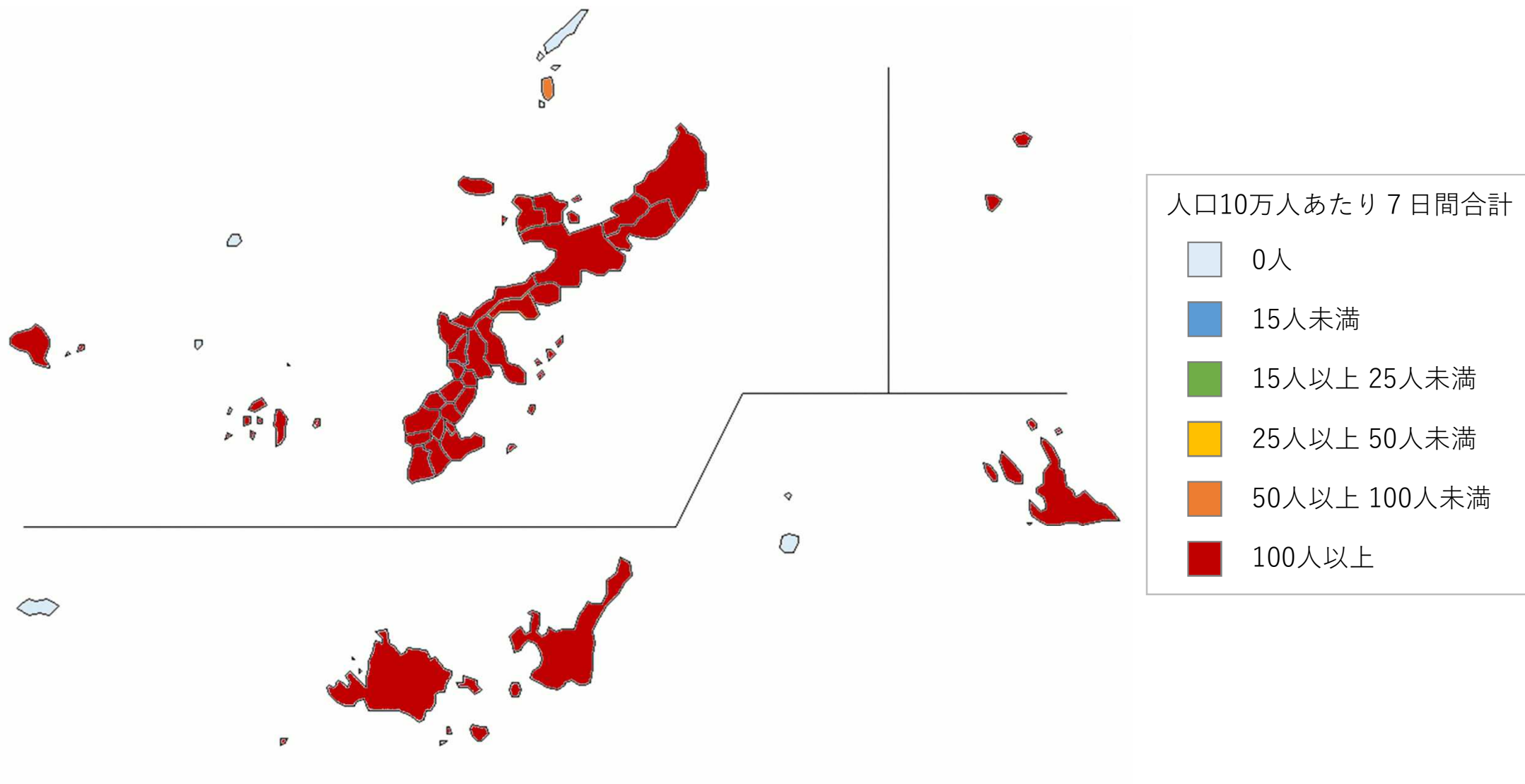


図6 新規陽性者数および重症度別入院患者数

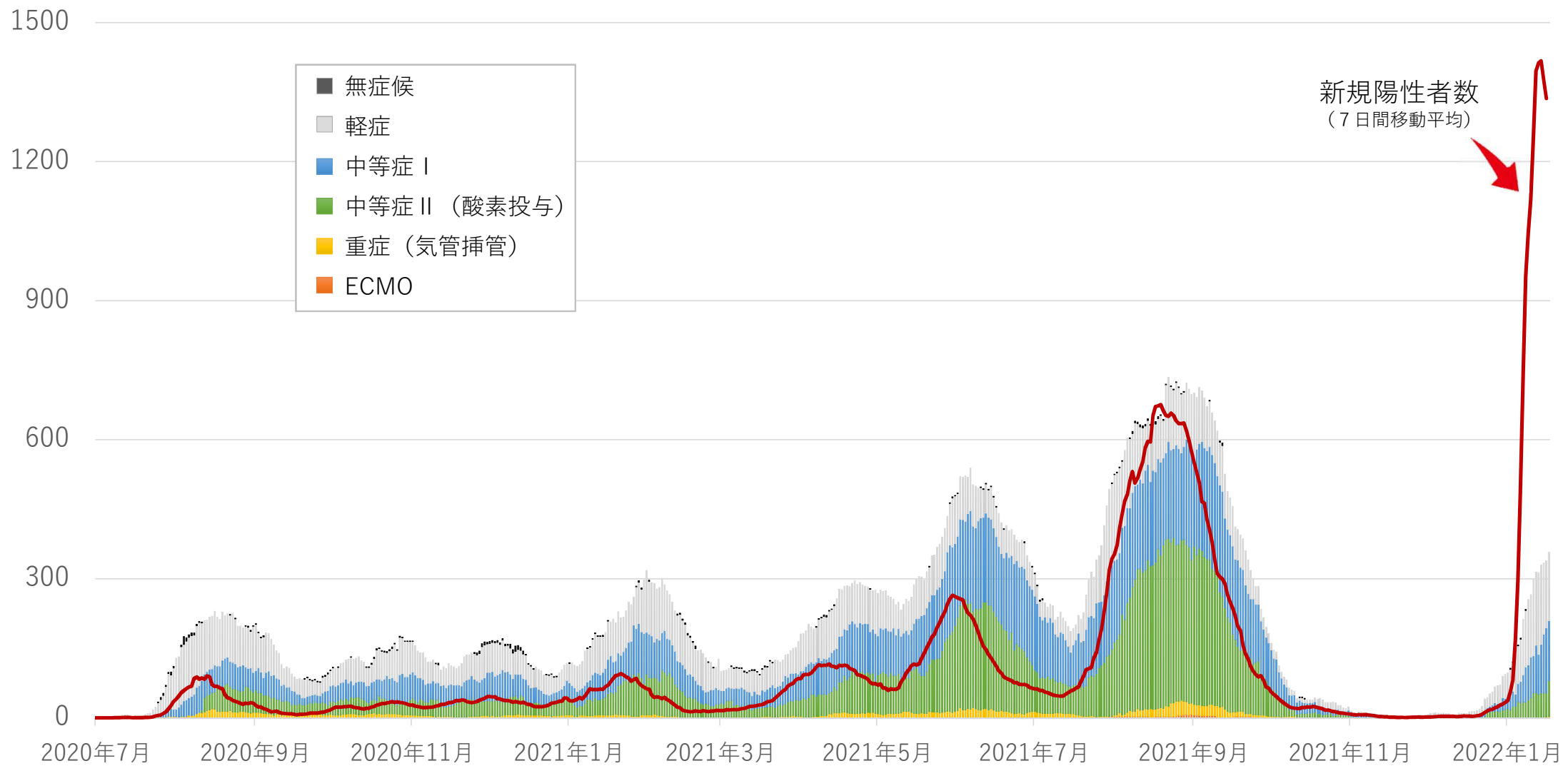


図7 重症度別入院患者数

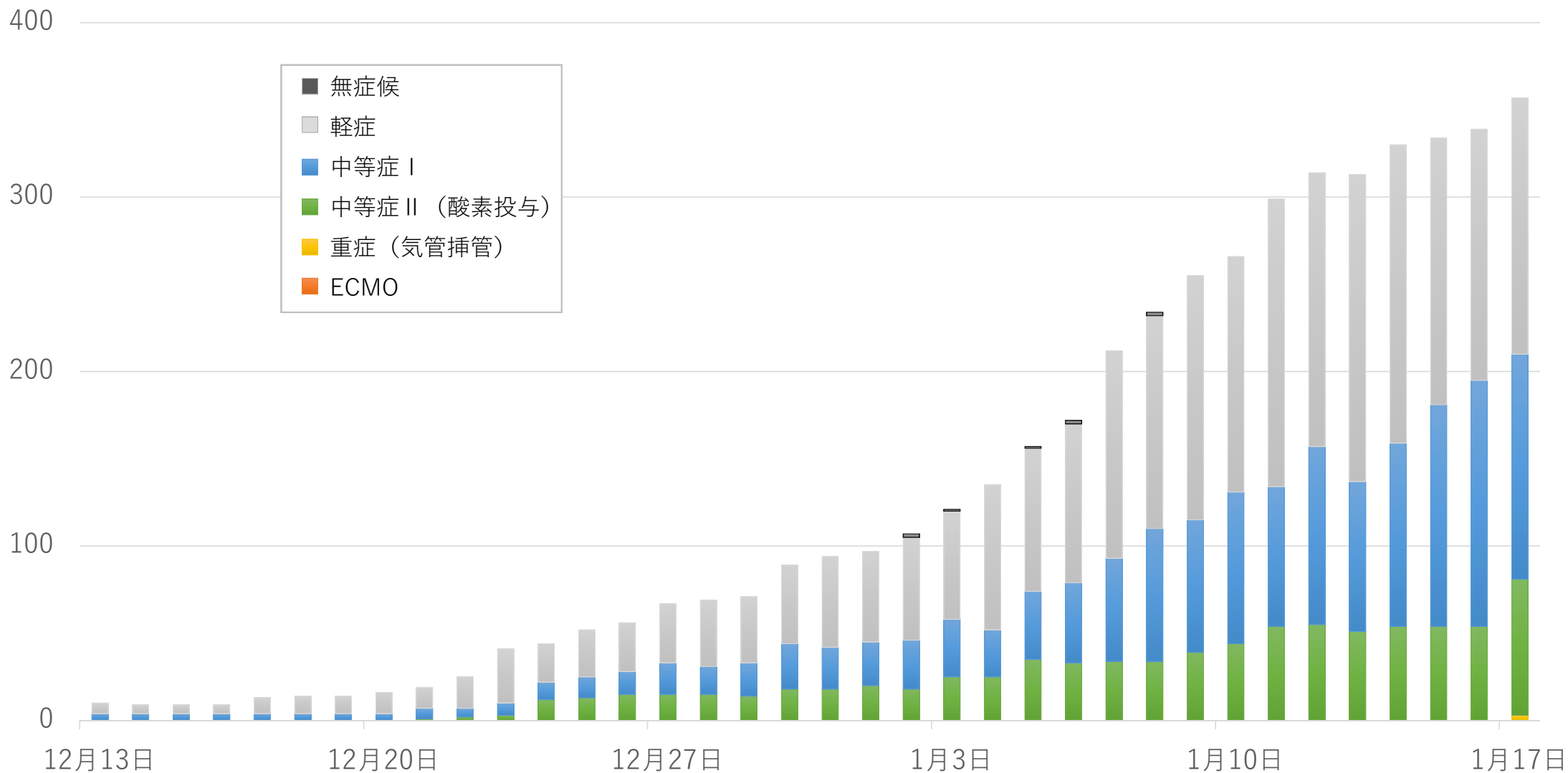
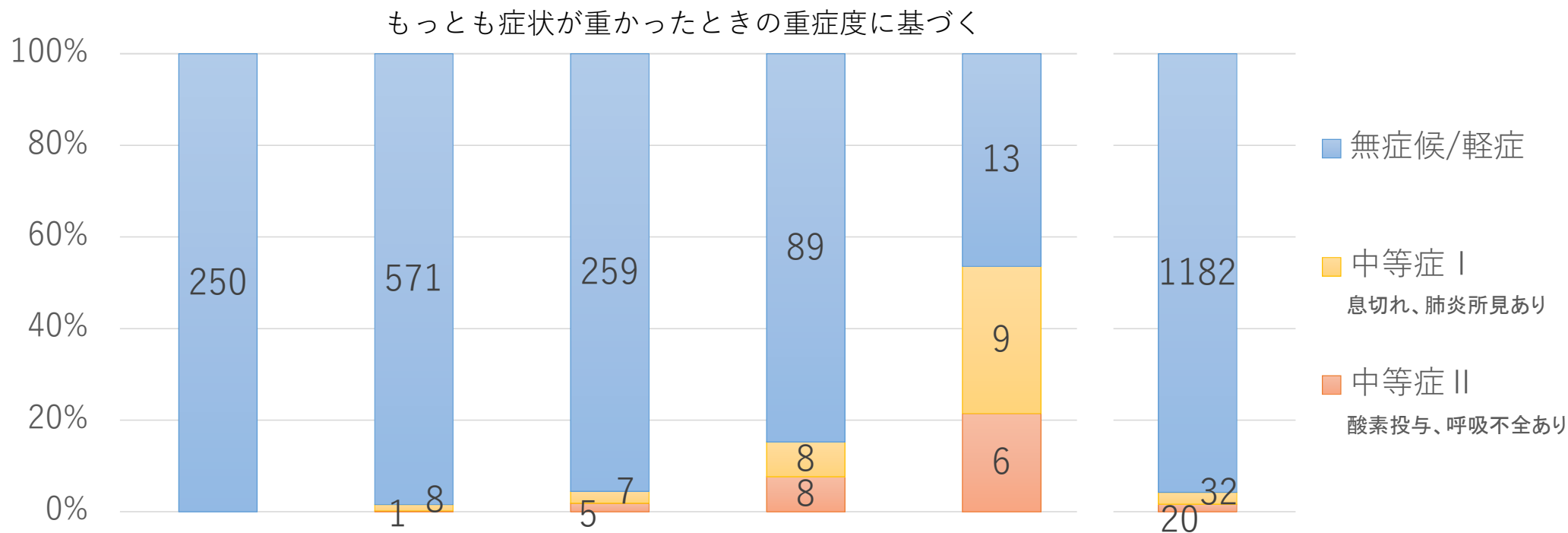


図 8 新規陽性者における重症度（宮古・八重山医療圏 / 1月1日～16日）



	0-19歳	20-39歳	40-59歳	60-79歳	80歳以上	全年齢
無症候・軽症	100.0%	98.4%	95.6%	84.8%	46.4%	95.8%
中等症 I	0.0%	1.4%	2.6%	7.6%	32.1%	2.6%
中等症 II	0.0%	0.2%	1.8%	7.6%	21.4%	1.6%
重症	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

発症早期には、ほとんどが軽症であるため、今後、中等症、重症が増加する可能性がある。

図9 今後1週間（1月17日-23日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）				入院患者数 ※				重症患者数 ※			
	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
北部	399	804	1,619	3,260	77	96	126	176	0.0	0.0	0.0	0.1
中部	1,623	3,269	6,583	13,256	138	180	247	359	0.0	0.0	0.1	0.1
那覇市	1,082	2,178	4,386	8,832	112	144	195	280	0.0	0.0	0.1	0.1
南部	1,337	2,693	5,423	10,921	99	132	184	273	0.0	0.0	0.0	0.1
宮古	221	445	896	1,805	33	41	53	74	0.0	0.0	0.0	0.0
八重山	62	125	252	507	19	22	26	34	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	4,725	9,514	19,159	38,581	479	613	831	1,195	0	0	0	0

※ 1月23日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会